

令和7年度（2025年度）
第1回 熊本市文化芸術推進会議
議事録

【開催日時】 令和8年（2026年）3月24日（火）10:30～12:00

【開催場所】 熊本市議会棟

【出席者】

■委員

| | |
|--------|------|
| 喜久山 悟 | 委員長 |
| 西島 喜義 | 副委員長 |
| 石櫃 仁美 | 委員 |
| 小堀 俊夫 | 委員 |
| 佐藤 勝昭 | 委員 |
| 田中 一平 | 委員 |
| 中島 久美子 | 委員 |
| 浪床 敬子 | 委員 |
| 持田 修一 | 委員 |
| 吉村 尚子 | 委員 |

■事務局

早野文化市民局長
上島文化創造部長
<文化政策課>
岡内課長
村上主査
吉田主事

【会議内容】

■議事

- ・今後の進め方について
- ・熊本市文化芸術推進基本計画の進行管理について
- ・文化芸術を支える新たな基盤の検討について

■報告

- ・文化的処方紹介

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------|--|
| | ■開会 |
| | ■あいさつ |
| | ■委嘱状交付 |
| | ■委員自己紹介、委員長及び副委員長の選出 喜久山委員を委員長に、西島委員を副委員長に選出した。 |
| | <議事> ・今後の進め方について ・熊本市文化芸術推進基本計画の進行管理について 事務局説明 |
| 喜久山委員 | 本件は第1回目であり、具体的な記述が乏しいため、現時点での判断は困難である。次回において具体的内容が示される予定であることから、その際に改めて進行管理に関する意見を求めるものとする。 |
| | <議事> ・文化芸術を支える新たな基盤の検討について 事務局説明 |
| 喜久山委員 | 文化芸術推進基本計画策定委員会で述べられた意見が、今回示された課題に反映されていた。 アーツカウンシルについては、文化芸術推進において重要な要素となると考える。熊本市としても、適切な組織形態を今後検討していく必要がある。 アーツカウンシルの代表例として、行政内部に設置する堺市、財団内に設置する新潟市、新たな組織を立ち上げた名古屋市が挙げられていた。しかし、熊本市の現状が十分に整理されていないため、どのモデルが適合するのか判断が難しい状況である。 熊本市としてのメリット・デメリットに関する情報を把握したい。 |
| 事務局 | 代表例としてアーツカウンシルを紹介したが、他都市ではアーツカウンシル以外の形態、例えば外郭団体内に同様の機能を持つ組織を設置している例もある。 そのため、他都市の事例も参考にしつつ、まずは熊本市としてプラットフォームにどのような機能が必要であるのかを検討していく必要がある。 その上で、必要とされる機能を効果的に実施できる体制を構築することが重要であると考えている。 |
| 浪床委員 | 次回以降で構わないため、各形態のメリット・デメリットを分かりやすく整理して示してほしい。特にデメリットを整理することで、今後検討すべき課題が明確になると考える。 |
| 小堀委員 | 浪床委員と同様の意見である。行政内部に設置した場合、連携は図りやすいとされる一方、意思決定に時間を要する傾向があるとされている。このようなデメリットも想定できるが、熊本市の場合の実態が不明であるため、その点を示してもらい、判断材料としたい。 |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------|--|
| 西島委員 | <p>プラットフォームを検討するにあたり、市民が文化とまちづくりをどのように結び付けて考えるのか、また市政がどのように関与していくのが重要である。そのためには、まず熊本市の現状を的確に把握する必要がある。</p> <p>さらに言えば、役所組織の中で基金を設け、財団を設立するとなれば、財政的な負担がどの程度生じるのかという議論も避けて通れないと考える。</p> |
| 事務局 | <p>3都市の事例を紹介したが、第2回会議では、現地視察を踏まえて各形態のメリット・デメリットを整理するとともに、熊本市の文化活動における現状についてもまとめる必要があると思った。</p> <p>熊本市の文化施策の特徴として、東京藝術大学と連携して推進している文化的処方取組が挙げられる。プラットフォームを構築する際には、この文化的処方取組をどのように位置付け、組み込んでいくのかについても整理する必要があると考えている。</p> |
| 喜久山委員 | <p>どの自治体がどの程度うまく機能しているのか、その理由は何であるのか、あるいは動き出したもののどのような点でつまづいたのか、といった実態を把握したい。</p> |
| 中島委員 | <p>地域の自治会に関わる中で、市民が文化芸術に触れる機会が十分に確保されていない現状があると感じている。私は子ども劇場の活動を通じて、児童劇団や地域に関わるアーティストとのネットワークを有しており、公民館主催のコンサートを実施することもある。最近では老人会からも相談を受けている。</p> <p>このような取組を通じて、文化芸術を介することで人と人がつながるという効果を肌感覚として実感しているところである。</p> |
| 佐藤委員 | <p>3都市で予算規模が大きく異なる点が気になった。文化芸術は市民からの支持が不可欠であり、文化芸術費を削減する自治体もある中で、そうならないための財政面の組立てが必要であると感じた。行政内型の仕組みでは、その点が厳しくなるのではないかという印象を持った。これらについては、今後さらに検討していく必要がある。</p> |
| 石櫃委員 | <p>資料に示されている予算規模について、人件費と物件費という表現があるが、この中に事業費が含まれているのか教えて欲しい。</p> <p>また、主な業務については大まかな表記となっているため、具体的な事業内容と事業費について次回示していただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>堺市の人件費は、プログラムディレクターおよびプログラムオフィサーが活動した際に支払われる報酬である。また、人件費には、アーツカウンシルの審議会に係る委員報酬も含まれている。物件費については、チラシやパンフレットの作成、勉強会や交流会の会場費などが計上されている。</p> <p>なお、堺市では補助金を行政側が直接交付しているため、アーツカウンシルの予算には計上されていない。</p> <p>一方、新潟市および名古屋市では、アーツカウンシルが補助金による助成事業を実施しているため、その助成金額が物件費に計上されている。</p> |
| 吉村委員 | <p>アーツカウンシルの体制をどのような形で構築するのか、また、その決定をいつまでに行うのかについて確認したい。</p> |
| 事務局 | <p>令和9年度までに令和10年度からプラットフォームを設立するのかわからないのかを検討していきたいと考えている。</p> |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------|--|
| 吉村委員 | いつまでに方針を決定しなければならないのかを念頭に置きながら、熊本市の課題や不明点をまずは分かりやすく共有したうえで、検討を進めていきたいと考えている。現時点では、熊本市内の文化に関わる組織がどのような構成となっており、どのような人材がどのような役割を果たしているのかが整理されていない。このような基礎的な情報を共有することが必要であると感じた。 |
| 早野局長 | 今回資料で示した地域アーツカウンシルは、必ず設置することを前提としたものではない。活動者と関係団体をつなぐ横断的な仕組みが必要であるという認識を共有したうえで、どのような仕組みとするのか、例えば熊本県の文化協会、熊本市の文化協会、熊本市美術文化振興財団など既存組織がある中で、どのような課題があり、どのような役割を担う組織が必要なのかについて、事務局から資料を提示しながら議論を進めていただきたいと考えている。 |
| 喜久山委員 | アーツカウンシルという概念そのものについて、現時点では十分に理解が追いついていない状況である。プラットフォームとアーツカウンシルがどのような関係性にあるのか、また、場合によっては同義のものとして扱われるのかについても整理していく必要があると考えている。 |
| | <p data-bbox="389 927 485 958"><報告></p> <ul data-bbox="389 972 619 1003" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="389 972 619 1003">・文化的処方紹介 <p data-bbox="517 1016 644 1048">事務局説明</p> |
| 田中委員 | <p data-bbox="360 1115 1445 1272">まちづくりや福祉の分野においても、文化的処方が広がってきているという実感がある。一方で、アーティスト側にどのように浸透させていくかが課題であると感じている。文化的処方は開発・研究段階にある取り組みであるため、引き続き皆様の意見をいただきながら進めていきたい。</p> <p data-bbox="360 1285 1445 1406">アーツカウンシルの事例を参考にプラットフォームを構築していくことになるが、既存のアーツカウンシルの型にとらわれず、熊本市ならではのプラットフォームをつくり上げていければよいと感じた。</p> <p data-bbox="360 1420 1445 1496">また、名古屋市では市職員が兼務している点が特徴的であり、相乗効果が期待できる取組であると感じた。</p> |
| 喜久山委員 | 文化的処方という言葉はなにに対する処方を想定しているのか。 |
| 田中委員 | <p data-bbox="360 1771 1445 1928">医学でいう「処方」に着想を得て、薬を処方するように文化を処方することで、人とのつながりや精神的な幸福度を高める取組である。具体的には、高齢者や子育て世代を対象に文化に触れてもらうことをきっかけとして、知らなかった場所や人とのつながりが生まれていくイメージである。</p> <p data-bbox="360 1942 1445 2056">もともとと美術等に関心がある人にとっては、文化芸術に触れることで楽しさや向上心が高まるという感覚は常にあると思われるが、この効果をより広く伝えるために、「文化的処方」と銘打って取り組みを広げている。</p> |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------|---|
| 喜久山委員 | これまでの行政による文化事業は、特定の集団やコミュニティを対象として実施されている印象があったが、文化的処方においては、より個別の状況に応じた働きかけが行われていると感じた。 |
| 吉村委員 | 資料には「委員からのご意見」とあるが、そこで示されている意見は文化に近い立場の方々の視点に偏っている印象を受けた。本来、文化とは日常の中にある美しさや、非日常の中に日常を見出すようなものであると考えており、より身近に文化芸術を感じられる仕組みが必要であると感じている。 一般の方々が文化芸術についてどのように捉えているのか、アンケート調査を実施しているのかを確認したい。 市民が「身近に文化芸術に親しめる」とは具体的にどういうことを指すのか、その共通理解を図ることも重要であると考えている。 |
| 事務局 | 文化芸術推進基本計画を策定するにあたり、アンケートを実施している。また、令和8年度の間見直しに合わせて新たなアンケートを実施する予定であり、場合によってはアンケート内容について委員の皆様からご意見をいただきたいと考えている。 文化的処方は、市民が「身近に文化芸術に親しめる」取組の一つである。現在開催している「熊本地震と文化的処方—私のこころが動きはじめるとき—展」では、身近な文化芸術が持つ大きな力を感じ取ることができる展覧会になっていると考えている。 |
| 喜久山委員 | 市民がどれくらいの頻度で文化芸術に触れているのかという数値は把握できるが、実際にどのような手立てを講じればよいのかについては、まだ十分に見いだせていない状況である。そのような中で、文化的処方は新たなアプローチを可能にする仕組みとなり得ると感じた。文化芸術へ無理に誘導するのではなく、市民が自然に文化芸術を求めるようになるにはどうすればよいのか、今後の大きな課題であると考えている。 |
| 小堀委員 | 熊日で実施されている「私の熊本城」という企画では、写真という文化を投稿することで、市民が思いを新たにする契機となっている。また、美術館や歴史民俗博物館で文化に触れることが、認知症の刺激にもつながるなど、それ自体も文化的処方の一つになり得ると考える。こうした取組を含め、文化的処方を総合的に整理し、まとめていくことが重要であると感じた。 |

| 発言者 | 発言要旨 |
|-------|---|
| 持田委員 | <p>具体的な課題が見えてこない、それに対する施策や組織は見えてこない。そこを事務局で示していただきたい。</p> <p>自身の事業の経験から、文化芸術が子どもや若者の才能を育み、将来の進路の可能性を広げる力があると実感している。質の高い舞台や表現活動に触れる機会が熊本では限られており、幼少期から本格的な文化・エンタメに触れる機会を増やすことが重要であると考えている。</p> <p>また、漫画学科のある高校の支援を通じて、同じ興味を持つ環境が生徒の才能開花につながることで、高齢者との交流が地域の活力向上に寄与することを確認した。漫画などの表現媒体は、子どもから高齢者まで幅広い層に効果があり、認知症予防や脳の活性化にも寄与する点が示されている。</p> <p>これらの経験を踏まえ、文化芸術の担い手を育てることは熊本のみならず全国的な課題であり、具体的な目標を設定し、それに応じた組織や仕組みを整える必要があると考える。市民も若い世代を育てる取組には共感しやすく、文化政策として取り組む意義は大きいと感じている。</p> |
| 吉村委員 | <p>自らの経験から、子どもたちが新しい文化をつくり出す可能性が大きいと感じている。特別な劇場でコンサートを鑑賞するような文化芸術だけでなく、アーバンスポーツなどの新しいカルチャーも含め、柔軟に文化を捉える必要があると考える。</p> <p>例えば、スケートボードは若年層を中心に広がり、ファッションやグローバルな価値観とも結びつき、世代を超えて刺激や影響を与えている。熊本でも若い選手が世界で活躍しており、こうした新しい文化が地域の豊かさにつながると感じている。</p> <p>文化を何か特定の形に限定するのではなく、より柔軟に、多様な文化の可能性を検討していくことが重要であると考えている。</p> |
| 持田委員 | <p>自身の会社では、スポーツ選手もアーティストであるという考え方を持っている。ルールのある中で、不自由な肉体を最大限に活かし成果を上げることは、発想力やイメージ力が求められ、身体表現としてのアートとも捉えられるためである。</p> <p>その考え方を踏まえ、高森町にある自社施設「アーティストビレッジ麻生ロッジ」では、文化芸術やエンターテインメント分野のアーティストだけでなく、スポーツ選手の育成も支援する施設として運営していきたいと考えている。</p> |
| 喜久山委員 | <p>大谷翔平選手のような存在がもたらす経済効果だけでなく、次世代が受ける刺激の効果はさらに大きいと感じている。アスリートやアーティストが自己表現を通じて輝く姿は、それ自体が他者を照らし、影響を与える力を持つ。</p> <p>また、文化的処方制度や仕組みとして構築される面がある一方で、アーティストなど表現者が個人に直接働きかけることによって初めて動き出す人もいると考える。必ずしも有名な表現や既存の文化に触れたことがない人に対しても、表現者の呼びかけが重要な役割を果たす。</p> <p>文化が大きく盛り上がっても、その枠組みからこぼれ落ちる人は必ず存在するため、丁寧にアプローチするための表現者の育成が必要であり、それも「処方」の一部であると感じた。</p> |